

著作権保護コンテンツ

あおきひろえさん

2月末にプロンス新社より夫婦絵本『おいせまいり わんころう』(絵/長谷川義史)が刊行されます。今年も心に残るいい絵本を描いていきたい、それだけ。



アンヴィル奈宝子さん

8年前に出版された『さるおどり』(文/降矢なな 福音館書店「こどものとも」)を、静岡のお母さん人形劇団がペープサートで上演するため準備中。絵本って、こういう発展があるから楽しいですね。今年もよろしくお祈りします。



秋山とも子さん

たくさんの方が登場する絵本の準備を始めました。さて、どんな絵本でしょうか!? お楽しみに!



浦中こういちさん

2月にスケッチブック・シアター『はい!パッチン!』(かもがわ出版)が、4月に月刊絵本『びったんこ』(鈴木出版)が発売です。



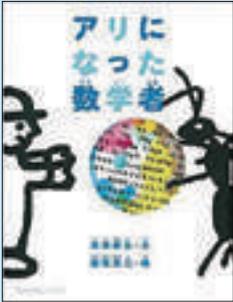
岡田千晶さん

現在、春に出版予定の絵本を制作中です。5月に2つのグループ展に参加します。ギャラリー路草(東京都豊島区)にて5月16日~28日に「第2回ホテル暴風雨展」、教文館エインカレムギャラリー(東京都中央区)にて5月17日~26日に、「13人のオリジナルじゃばら絵本」の展示。

絵本作家さんからの年賀状 二〇一九年 亥 新春

本誌でお世話になっていている絵本作家さんから年賀状をいただきました。絵本とはまたひと味違った絵の世界をお楽しみみてください。

著作権保護コンテンツ



『アリになった数学者』

文/森田真生 絵/脇阪克二 1,300円(福音館書店)

- ★小さなアリになり、心に浮かぶ変幻自在なものと、懐かしく心を通わせてみましょう。生きる喜びを感じ、大きく開かれた「数」に感じ入ります。美しき数学の宇宙への招待状。
(東京都/代官山鳥屋書店 山脇陽子)
- ★小学1年生のころ、「 $1+1=2$ 」が不思議でした。この本に出合えてなんだかうれしくなりました。「数」と「世界」がとても不思議で美しくと深く感じる絵本です。
(福岡県/絵本の店 あっぷっぷ 三角 綾)



『あめだま』

作/ベク・ヒナ 訳/長谷川義史 1,500円(プロズン新社)

- ★ひとりで遊ぶからこそ見えてくる世界。せつなくておかしくて……。そして再び現実に戻ったとき、なんと美しい世界が待っていたことか。
(東京都/トルル 西山あつ子)



『おうさまがかえってくる100びょうまえ!』

作/柏原佳世子 1,400円(えほんの杜)

- ★1から100まで数える間のご家来衆の動きがダイナミックに描かれ、絵が物語る作品。読んでもらっても、自分でじっくり見返しても、両方楽しめます。
(茨城県/えほんやなずな 藤田一美)



『うみまだかな』

作/うちむらたかし 1,400円(クレヨンハウス)

- ★早く海に行きたい「ぼく」。でもどしゃぶりやいや雨宿り。そこでワニのおじさんに不思議な羽をもらって……。子どもの心の移り変わりは、いつの時代も同じなのですね。
(東京都/クレヨンハウス東京 鏡 鉄平)



『いっしょにおいでよ』

文/ホリー・M・マギー 絵/バスカル・ルメートル 訳/なかがわちひろ 1,500円(廣済堂あかつき)

- ★残念ながら世界中にある暴力的・排他的な言動。難しいこの問題をあきらめずに、ひとりずつができる最初の一步の踏みだし方を、子どもたちに提案してくれたことに感謝です。
(北海道/おとなとこどものブー横丁 鈴木千恵)

全国の児童書店員からの

おすすめ

毎日、書店の現場で子どもたちや読者に接している書店員が「いい絵本だな」と実感しているものを、おひとり一冊ずつあげてくれました。

(タイトル五十音順 推薦者の敬称略)

著作権保護コンテンツ



『てぶくろ ウクライナ民話』

絵/エウゲーニー・M・ラチョフ 訳/うちだりさこ
1,000円 (福音館書店/1965)

★うちだりさこさんの訳が、この物語にリアリティあふれる存在感をもたらしています。またラチョフの絵も動物が服を着ています。違和感がなく、子どもたちが自然に絵本の中に入り込む気配が感じられます。

(京都府/諸岡 弘)

★動物のネーミングが素敵。「くいしんぼねずみ」「おしゃれぎつね」……など。先に入った動物を「だれ」「だれだ」「どなた」と尋ねるひとことで、その姿をイメージできるところも大好きです。(宮崎県/工藤輝子)



『まりーちゃんといつじ』

文・絵/フランソワーズ 訳/与田準一
640円 (岩波書店/1956)

★まりーちゃんと、ヒツジのぱたほんのかけあいが愉快。絵も文もやさしく、小さい人をそっと包みこんでくれるような絵本です。(宇野和美)



『もりのなか』

文・絵/マリー・ホール・エッツ 訳/まさきりこ
1,000円 (福音館書店/1963)

★間崎先生が、ニューヨーク公共図書館の児童室で、日本語になる前から現地の子どもたちに読んでいた本。淡々として、簡素な日本語でありながら、子どもたちの心に深く届く名訳。私の指針となっています。

(小宮 由)



『いたずらこねこ』

文/バーナティン・クック 絵/レミイ・シャリーリップ 訳/まさきりこ
1,100円 (福音館書店/1964)

★生まれてはじめてカメを見た子ネコ。ポン!とたたくと頭がひっこみ、足が消え、子ネコはびっくり! しばらくして、カメが足や首を出すと、子ネコはひと足ずつ後ろに下がり……「たいへん!」。幼児が息をのんで聞き入ります。(長野県/豊嶋さおり)



『ちいさなうさこちゃん』

文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ
700円 (福音館書店/1964)

★「うさこちゃん」の造形の魅力はもちろん、七五調にときおり自由な語りを混ぜた訳文も、原文の真意を映して奥が深い。「ひとつひとつちゃんと」花に水をかける「ふわふわさん」に、子どもの個性を大事にする父親像を感じます。(野坂悦子)

★ 選書して下さった方々 (敬称略)

翻訳家 (宇野和美、こだまともこ、小宮 由、さくまゆみこ、野坂悦子)

JPIC 読みかかせサポーター養成講座講師 (宇野君代、江口陽子、工藤輝子、谷口和恵、豊嶋さおり、諸岡 弘)

著作権保護コンテンツ

『おとうとねずみち口のはなし』

絵／門田律子 1,200円（講談社）

『子どもたちへ、今こそ伝える戦争 子どもの本の作家たち19人の真実』

著／長 新太、和歌山静子ほか 1,800円（講談社）

『りんごの花がさいていた』

絵／篠崎三朗 1,100円（講談社）

『リンちゃんとネネコさん』

絵／野見山響子 1,300円（講談社）

『あした あさって しあさって』

絵／はたこうしろう 1,100円（小峰書店）

『おさらのぞうさん』

絵／杉浦範茂 1,000円（小峰書店）

『おはなしぼつちり 1 はる』

『おはなしぼつちり 2 なつ』

『おはなしぼつちり 3 あき』

『おはなしぼつちり 4 ふゆ』

絵／よたかかずひこ 各1,000円（小峰書店）



よみもの

『きいろい ばけつ』

『つりばし ゆらゆら』

『ぼくだけ しってる』

『たからもの とんだ』

『あのこに あえた』

絵／つちだよしはる

各900円（あかね書房）

『パンやのくまちゃん』

絵／広瀬 弦 1,200円（あかね書房）

『またおいで』

絵／いしいつとむ 1,000円（あかね書房）

『すこしかなしい話』

編／野上 暁 1,300円（大月書店）

『いいことがありました』

絵／ひがしあきこ 1,200円（偕成社）

『一さつのおくりもの』

絵／鴨下 潤 1,100円（講談社）



作品リスト

森山さんは、全部で約300作品ほど出版されましたが、その中から現在購入可能なものを紹介します。このほかにも、図書館などで森山さんの名作をお読みください。

森山 京 PROFILE

1929 (S4) 年	7月10日、東京・大森に3人姉妹の長女として生まれる。
1935 (S10) 年	満鉄社員だった父親の仕事の関係で、小学校入学前に家族で旧満州の大連に転居。半年ほどで潘陽（当時は奉天）に移り、小学校時代のほとんどを過ごす。
1941 (S16) 年	東京に戻る。その年12月に太平洋戦争が勃発。
1943 (S18) 年	満州から引き揚げ、父親の郷里、兵庫県に疎開。兵庫県立福岡高等女学校に転入。生徒動員で姫路の軍需工場に。
1945 (S20) 年	終戦を迎える。
1949 (S24) 年	神戸女学院大学に入学。
1950 (S25) 年	父・内藤楠夫さん逝去。生活が苦しく、同大学を中退。
1951 (S26) 年	阪急百貨店に入社。まもなく始まったラジオ放送でのCM制作に携わる。2年後テレビ放送開始にともない、映像CMも手がけることに。
1957 (S32) 年	活字媒体で仕事をしたい思いがつのり、同じ宣伝部にいた若いデザイナーと組んで制作した『おはん』（作／宇野千代）の書籍広告で準朝日広告賞を受賞。
1958 (S33) 年	岩波書店の少年文庫をとりあげた作品で、毎日広告デザインコンクール（の総理大臣賞（1等賞）を受賞。キャッチコピーは「お友達はこの本の中にも」。
1960 (S35) 年	百貨店を辞め、上京。フリーのコピーライターとして独立。
1962 (S37) 年	今も残る名コピー「25歳はお肌の曲がり角」(シユジュ化粧品)をつくる。
1963 (S38) 年	結婚。
1964 (S39) 年	日本デザインセンターに入社。高度経済成長期の広告業界という最前線で、コピーライターの第一人者として活躍する。
1968 (S43) 年	会社員生活のかたわらに書きためた童話をまとめ、講談社児童文学新人賞に応募。佳作入選。
1969 (S44) 年	長男を出産。前年受賞した作品「くりすが五ひき」(講談社)が刊行され、テレビ作となる。その後しばらくは子育てで優先の生活を送り、作家としての活躍は70年代後半から。
1989 (H元年) 年	1985年刊行の『きいろい ばけつ』から始まった「きつねの子」シリーズ全5巻(あかね書房)で、路傍の石幼少年文学賞を受賞。
1990 (H2) 年	『あしたもよかった』(小峰書店)で小学館文学賞受賞。
1996 (H8) 年	『まねのオイラ旅ねこ道中』(講談社)で野間児童文学賞受賞。
1999 (H11) 年	『パンやのくまちゃん』(あかね書房)でひろすけ童話賞受賞。
2009 (H21) 年	『ハナと寺子屋のなかまたち』(理論社)で赤い鳥文学賞受賞。
2017 (H29) 年	NHKラジオ「ラジオ深夜便」に出演。「人生のみちしるべ」冊の本が「あればいい」というタイトルで、これまでの人生や自分の作品、児童文学への思いなどについて語る。
2018 (H30) 年	1月7日、急逝。享年88歳。

もう
読んだ？

新刊

100!!

2018年9～11月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順

🍷 マークは乳幼児から、🎵 は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『そらはあおくて』

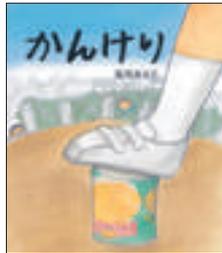
文/シャーロット・ソロト
訳/なかがわちひろ
絵/杉浦さやか
1,300円(あすなろ書房)



女の子は、お母さん、おばあちゃん、ひいおばあちゃんの幼いころの写真を見て、今の自分とずいぶん違うことに気づきます。でも、どのお母さんも、娘にやさしく語りかけます。「空はあおくて、草はみどり……」と詩のように。

『かんけり』

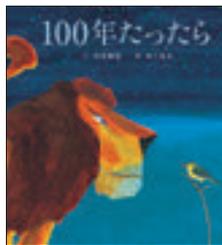
作/石川えりこ
1,500円(アリス館)



学校帰り、缶けりの約束をして、集まった7人。ゆうたくんが鬼で、私はりえちゃんと隠れます。りえちゃんには、いつも助けてもらえばかり。りえちゃんがつかまったら、助けなきゃ。勇気を出して走れ、缶へ！

『100年たったら』

文/石井睦美
絵/あべ弘士
1,500円(アリス館)



たった1匹になったライオンは、草原に降りたつた鳥と仲よくなりました。ときは流れ、鳥は「100年たったら会える」と言い残して命を終えました。100年後、ライオンは貝になり、鳥は海の小さな波になりました。

『ゴリラのくつや』

作/谷口智則
1,400円(あかね書房)



ゴリラの父ちゃんは動物たちがほしくなる、びったりの靴を作ってみなから喜ばれています。そこで息子のゴリラくんも、自分がほしくて似合う靴を父ちゃんに頼んでみたのです。どんな靴ができるでしょう。

『ぼく、アーサー』

文/井上こみち
絵/堀川理万子
1,400円(アリス館)



パピーウォーカーの家族と過ごしたあと、アーサーは盲導犬の訓練センターでたくさんのお話を学びました。ノリオさんのパートナーとしての10年間の終わりと、引退の日がやってきました。盲導犬の一生の物語です。

『ぬかどこすけ!』

作/かとうまふみ
1,300円(あかね書房)



売れ残りの^{かめ}甕は、おばあちゃんに買ってもらえて大喜び。お役に立とうと張りきっていましたが、ところがぐちゃぐちゃしたものを入れられ、登場したのはぬかどこ姉さん。ぬか漬けの秘密を教えてくださいました。

『ももももてんしのかぞえうた』

文/もとしたいづみ
絵/みなみくうこう
1,300円(アリス館)



“いちいちいっほほ ももてんし” “にっこりにこりん にこにこりん”。「ももてんし」と一緒に数え歌を歌いましょう！ 元気いっぱいいろいろな形のかわいらしい「ももてんし」。本の中に全部で何人いるかしら。

『ゆうたのおじいちゃん』

『ゆうたのおばあちゃん』
作/きたやまようこ
各800円(あかね書房)



ゆうたくんちのいばりイヌ、じんべいは、おじいちゃんひろしさん、おばあちゃんじゅんこさんとも仲よです。散歩したり、お茶を飲んだり、話を聞いたり、探し物をしたり。じんべいは、ふたりのそばにいます。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

第 2 回

絵本が できるまで

ただ今リアルに
進行中!

絵本づくりの舞台裏をのぞく連載2回目は、
墨入れ、そして、色塗りの工程に！
少しずつ命が吹き込まれていくかのように
黒川みつひろさんが描く恐竜たちの姿も
イキイキしてきました。



絵本の絵を描くとき、ぼくはひとつの画面を完成させたら次の画面へという描き方はしていません。たとえば、トリケラトプスが登場する絵本なら、トリケラトプスばかり描いちゃう。そうやって手が慣れてきたところで、難所に取りかかります。いちばん難しいのは、恐竜の子どもの顔です。ちょっとした筆加減で表情が変わってしまうため、腕の見せどころでもあるのですが、たいていは描き慣れている大人のトリケラトプスから着手します。鉛筆描きのラフスケッチ(以下ラフ)が完成したら、次は墨入れです。ラフが下描きなら、墨入れは黒インクでの清書と表現するとイメージしやすいかもしれません。墨入れには、主にインソグラフィと呼ばれる製図ペンを使います。これは、

集中力が勝負の 墨入れ

最も強力な耐水性インクのペンなので、インクそのものが丈夫。その分、詰まるとややこしいことになるという苦労がありまして、インソグラフィを使っている絵本作家は少数かもしれませんね。



墨入れは集中力が勝負。
インソグラフィやラピッドグラフィと呼ばれる製図ペンを使う。

Start



絵本ができるまでの工程

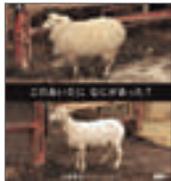
Goal

③・④を差し替えて中学年に

③「このあいだに なにがあった？」 10分

作/佐藤雅彦+ユーフラテス
900円(福音館書店)

もう少し頭を働かせてみましょう。
子どもたちが発する言葉を十分に受けるために、全部をクイズにしないでいいでしょう。時間によっては、クイズにせず読み進めるページを決めておきます。



④「せかいいち おいしいスープ」 10分

文・絵/マーシャ・ブラウン
訳/こみやゆう
1,600円(岩波書店)

最後は頭を働かせた人のおはなしです。
色みをおさえた表紙ゆえ、子どもが避けがちなのですが、読みきかせると記憶に残る作品。学校の蔵書ではペンギン社版・わたなべしげお訊の場合も。



プログラム(30~40分) 小学校高学年

テーマ:「考える~新しい学年の始まりに~」

新学期、少しでも自分と違う考え方や価値観、自分自身を考えるきっかけに。

①「みえるとかみえないとか」 10分

作/ヨシタケシンスケ 相談/伊藤亜紗
1,400円(アリス館)

大人気のヨシタケさんの作品を。
「もう、読んだ」という子がいるかもしれませんが、でも、この作品、自分で読むのと読んでもらうのでは「深さが違う」と6年生が言っていました。「読んだことがあるの? よかった、もう一回聞いてね」と笑顔で受けましょう。セリフも全部読みます。



②「どんなかんじかなあ」 5分

文/中山千夏 絵/和田 誠
1,500円(自由国民社)

宇宙のお友だちとの違いを楽しんだあとは、地球のお友だちのことを考えましょう。「めをつぶってみよう」「みみをふさいでみるぞ」では、短い時間でも実践をおすすめします。こうすると関心が高まるようです。明るくおおらかに読んでください。



③「わたし」 3分

文/谷川俊太郎 絵/長 新太
900円(福音館書店)

もう少し自分のことを考えてみましょう。
一編の詩を読むようにリズムカルに読んでください。幼い子向けの本として紹介されることが多いようですが、なかなか哲学的。



④-A『はだかの王さま』 20分

作/アンデルセン 訳/乾 侑美子
絵/バージニア・リー・パートン
1,700円(岩波書店)

自分が人からどう見えるか? 誰もが気になりますね。

約20分かかりますが、聞き手にも読み手にも、長さを感じさせない作品です。絵をしっかりと見せながら読んでください。地の文は多少テンポアップしても各人の言葉は丁寧に読みます。丁寧語や謙譲語が多いので下読みをしっかりとしましょう。終盤、キーマンの子どもが登場するあたりからは読みの速度を下げ、ゆっくり読んで物語を終わらせてください。深い満足感が得られます。



④-B『子どもに語る アンデルセンのお話1』 20分

編/松岡享子 1,600円(こぐま社)

ストーリーテリングもしくは読みきかせ。その場合3冊目『わたし』を省略し、その3分で2巻があること、ほかにも「おやゆびひめ」などが収録されていることを紹介し、目次を見て興味のあるおはなしだけを読んでもいいことを伝えます。



プログラムを考えるヒント

本来プログラムには、「こうあるべき」という決まりはありません。大切なことは、目の前にいる子どもたちに読みきかせを楽しんでもらうこと。子どもたちが絵本の世界をより楽しめるよう、準備と工夫をすることが「プログラムを考える」こと。そのように私は考えています。今回の場合を箇条書きにすると、

- ①会場や対象、季節をイメージする。
→ 教室 / 5・6年生 / 新学期
- ②メインの絵本を決める。
→ 『はだかの王さま』
- ③メインの絵本と相性のいい絵本や手遊びなどを選ぶ。
→ タイプや時間の違う絵本
- ④時間を確認し、順番を考える。
→ 短くしたいときは『わたし』をやめて時間調整
- ⑤全体を通して、子どもにとってどうかを確認する。
→ 4をBのストーリーテリングに置き換えるのもいい

これは私自身のプログラムを組む手順ですが、特に大切にしているのは④と⑤です。具体的には、時間内に終わること、盛りだくさんにすぎないこと、同じようなジャンルやタイプの本を続けないことにつきます。最近は図書館や自治体の講座でもプログラムを考えるワークショップが増えているようです。広報やHPなどでチャンスを見つけて参加してみてもいいかもしれません。



児玉ひろ美 こだま・ひろみ

図書館司書。JPIC 読書アドバイザー。小・中学校を中心に読みきかせやブックトークを実施。読書アドバイザー養成講座の講師も務める。著書に「0~5歳 子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド」(小学館)がある。